

つくる。
幸せ色あふれる
相模原 政策集
2019



賢も
太郎むら

皆さんに、相模原の未来
について聞きました。

はじめに

「この街に誇りを持っている」151位、「この街(のあり方)に共感している」150位。シビックプライド総合146位。これは、昨年7月に発表された151自治体に対するシビックプライド(都市に対する市民の誇り。自分自身が関わって地域を良くしていこうとする自負心のこと)調査の結果です。相模原市は「誇り」で最下位になってしまいました。

また、全国学力・学習状況調査の結果、47都道府県と20政令指定都市の中で最下位グループだったというのは、ご存知の方もいるのではないのでしょうか。

相模原市は、今年4月から政令指定都市となって10年目に入ります。これまでの10年間は、政令指定都市としての基礎をつくる10年間だったのかもしれませんが。

しかし、平成も終わりを迎え、次の10年に向かっていく今、ここで新しい時代を迎え、「私は相模原に住んでいる」と誇りに思えるまちにしていくなすべきではないでしょうか。

私たちのまち・相模原は、可能性に満ちています。都市でありながら旧津久井4町の自然に恵まれ、都市と自然のベストミックスを目指せる。リニア中央新幹線の新駅が予定され、相模総合補給廠の返還跡地が活用でき、圏央道の開通で重要な経済的ポジションも確立しつつあります。

相模原市の財政は、政令指定都市の中でも最も小規模ですが、健全性が保たれていると言われています。しかし、少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少する中、市税収入が減少・扶助費(児童福祉費、社会福祉費、生活保護費など)が増大しており、経常収支比率は指定都市の中でも高く、インフラの維持管理だけでも莫大な費用を要する中、厳しい状況にあり、大きな投資は困難です。

だからこそ、まずは今ある資源をしっかりと活かし、子育て世代・働き盛り、そしてシニア世代の皆さんに選ばれるまちにする。人の流入は市の税収増へとつながります。そして、相模原で働く場をつくることで、市民のワークライフバランスの向上も目指していきたい。そのためには雇用を生む企業誘致が求められ、それが法人税収入増にもつながるでしょう。

また、今ある資源を活かす取組みは、持続可能な社会を目指すことにつながります。相模原は、日本一のSDGs都市になりうるのです。

今ある資源。そして、ここに暮らす多様な市民。他市にはない、市民も知らない魅力をまず活かしていくことで、私たちのまち・相模原に誇りを持つところから始めます。

72万人の市民の皆さんを家族のように身近に感じながら、それぞれの幸せ色であふれる相模原をつくってまいります。

もとむら賢太郎

日本一のSDGs都市 相模原へ！ 安心して暮らせる幸せなまちづくり

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



日本の自治体の約半分、896市町村が2040年までに「消滅可能性都市」になるとされています。神奈川県内でも9市町村が対象となっています。相模原市も、2019年をピークに人口は減少する見通しになっています。

自治体だって、ずっと持続する存在ではない時代。それでは市民は安心して暮らしていきけません。だからこそ、相模原市は「日本一のSDGs都市」を目指し、持続可能な社会を実現させていきます。

SDGsとは、2015年に国連で採択された「持続可能な世界を実現するために、2030年までの達成を目指す17の目標」のこと。「誰ひとり取り残さない」をキーワードに、一人ひとりが「何をしたらいいのか」を考えて行動していく取り組みです。

政令指定都市として、国際社会の一員として、この取組に積極的に貢献してまいります。相模原市では、一人一つ以上、SDGs達成のために貢献できることを探して、実践していきましょう。

もちろんその先頭に立つのは、市であり、市長です。市の主要事業を17のゴールに照らし合わせてフィットさせていくことで、日本一のSDGs都市を目指し、「都市と自然のベストミックス」を相模原ブランドとして日本、そして世界へと発信していきます。



幸せ色あふれる相模原をつくる もとむら賢太郎の政策《目次》

◆はじめに

◆日本一のSDGs都市相模原へ

◆つくる① 市民とつくる、市民が決める、幸せ色あふれる相模原。



《行政改革、市民協働》

◆つくる② 子どもたちが元気、子育て世代が幸せな相模原。



《教育、子育て》

◆つくる③ シニアが元気で幸せな相模原。



《医療、活躍の場》

◆つくる④ 産業が元気、働く人が幸せな相模原。



《産業振興、観光》

◆つくる⑤ 災害に強い、安心して幸せに暮らせる相模原。



《災害対策、環境》

◆つくる⑥ 暮らしやすい、市民が誇れる幸せな相模原。



《まちづくり、交通網》

◆つくる⑦ 多様な生き方が受け入れられ、誰一人取り残されずに幸せな相模原。



《多様性、障がい》

つくる① 市民とつくる、市民が決める、幸せ色あふれる相模原。

《行政改革、市民協働》



市民のための、市政だから。

市民の皆さんと同じ目線で、皆さんの意見を聞きながら、共に幸せ色あふれる相模原をつくってまいります。

選挙のあるなしに関わらず、誰よりも駅に立ってきました。地域を歩いてきました。そこでいただくご意見が、県政でも国政でも生きてきました。「市長の顔が見えない」、「意見を聞いてもらえてない」、そんな声が聞こえてくる現状を変えていきます。

○市民に開かれた、新しい対話の場をつくります。

市民と市長のコミュニケーションを双方向に。新しい対話の場では、市民と市長と同じ話を聴く側に。

また、市長室の扉をなくし、誰にでも開かれた市長室とします。あわせて、ランチを食べながら、お仕事の後など、皆さんとお話できる場所まで出かけていく出前市長室「こんにちは、市長です」「こんばんは、市長です」(仮称)を実施します。

○市民の皆さんの「困った」に応える行政サービスにします。

縦割り組織では対応しにくい課題に対応するための、ワンストップ窓口の創設や、SNSを活かした行政サービスを実施し、身近で相談しやすい市役所にしてまいります。

○市民の知恵を市政に活かし、新しい「何か」が生まれる都市にします。

市民との共感と信頼をベースに、企業やNPO、市民など多様な主体との共同・共創によって行政サービスの改善や新たなサービスの構築を図っていきます。

つくる② 子どもたちが元気、子育て世代が幸せな 相模原。 《教育、子育て》



**子どもたちがどんな環境にうまれても
夢を語り、追いかけていく姿を支える。
皆で支えあい、幸せな子育てを。**

子育て世代に選んでもらえる相模原になることは、相模原の未来を担う子どもたちのための政策であることはもちろん、これから相模原が迎える人口減少やそれに伴う財政課題への取組としても重要です。

○おいしい給食で子どもたちに幸せを。中学校給食を見直します。

デリバリー給食は見直し、小学校・中学校間で行う本来の親子方式を検討します。小学校の自校調理はやめず、稼働を増やして、中学校にも温かい給食を提供してまいります。

○科学技術に強い人財・国際社会に通用する人財を育てます。

相模原市には、宇宙産業やロボット産業の研究開発に携わっている人、中小企業でも高度な技術を持っている人がたくさんいます。将来の地域経済を支える人財育成を市が責任を持って育てるため、科学技術に強い市立高校設立を、県立高校再編と合わせて準備・検討します。

○学校における授業の理解度を深め、基礎学力を定着させます。

授業の理解を深め、わかる喜びを感じてもらうため、習熟度に合わせた授業の導入等を検討し、基礎学力定着を促進します。

○日本一子育てしやすいまちを目指します。

待機児童ゼロ、学童保育の拡充、産前産後ケア、子育て支援窓口の拡充などを充実させ、子育てする親が孤独にならないよう市としてサポートします。また、保育士さんが働きたいと思う仕組みを検討します。

○子どもたちがのびのび遊べる公園を作ります。

あれもこれもダメの公園から、泥にまみれ、芝生に転がり、ボールで遊び、丸太小屋の中で全力で遊べる全天候型の公園を作ります。

つくる③ シニアが元気で幸せな相模原。

《医療、活躍の場》



**居場所がある。働ける。地域とつながる。
いつまでも健康に安心して暮らしていける幸せを。**

相模原市の全人口の4人に1人は65歳以上。10人に1人は75歳以上です。そのうち8割の方は介護サービスを必要としていません。また、9割は自立生活をできる方です。元気なシニアの皆さんが外に出て活躍する支援を行ってまいります。

○シニア世代の移動をもっと自由に。

元気なシニアの行動をより楽しく、自由にし、街の中でイキイキと活動していただく。外出が増えれば、健康維持にもつながります。そのために、敬老パスを導入します。シニアの皆さんの利用が増えれば、バスの路線も維持・拡充していきます。バス路線のないエリアでは、コミュニティバスやデマンドタクシーの充実をはかります。

○「医療から予防」で、健康寿命を延ばします。

病気になってから治すよりも、予防医療に軸足を置くため、かかりつけ医の登録を推進します。あわせて、高度医療と1次医療の連携を強化します。また、健康寿命を延ばすための啓蒙活動を実施します。

○シニア人財バンクの創設と、地域の拠点をつくります。

多世代が交流できる拠点を空き家や商店街の空き店舗などを使って整備します。人生100年時代のいま、地域のつながりと、それぞれが生きがいを持っていくことが大切です。認知症予防の視点からも、地域活動は重要。そこで、地域の財産であるシニアの皆さんの経験と知恵、それぞれの得意分野を活かす、シニア人財バンクを創設して、地域活動とマッチングさせてまいります。

つくる④ 産業が元気、働く人が幸せな相模原。

《産業振興、観光》



相模原で働いて、ご飯を食べて、家に帰る。

ワーク・ライフ・バランスを推進。地元で働く、幸せ。

相模原市の昼間人口比率は、88.3%。市外で働く人が圧倒的に多く、雇用の場が市内に足りていないという課題があります。相模原で働けば、ランチや飲み会も相模原、自宅も近い。通勤電車で揺られずに働くこともできます。そうした相模原スタイルの働き方を提案します。

○トップセールスによる企業誘致・中小企業支援を行います。

企業に相模原を選んでもらうため、市長自らが積極的に外に出て、直接企業を誘致してまいります。また、海外販路拡大の支援など、地元の中小企業支援や、やる気のある若者・女性の起業支援を行います。

○宇宙産業のスタートアップなど、新しいビジネスを支援します。

現在1.2兆円と言われている宇宙産業は、2030年には2.4兆円産業になると言われています。同分野の産業集積地は現在見当たりません。JAXAがあり、ロボット分野でも優れた企業の集う相模原市への集積を促進します。また、研究機関・大学も併せて誘致し、研究から社会実装までを相模原市で実現してまいります。

○テレワーク拠点の整備支援を行い、新しい働き方を支援します。

首都圏で始まろうとしている2拠点化。豊かな自然を後背地にもつ相模原は、都内や横浜とは違う新しい価値を提供できます。テレワークの拠点整備、最寄駅近くのシェアオフィス整備などで新しい働き方を支援し、東京・横浜に代わる選択肢を増やします。

○民間の力を活かした、観光振興を行います。

泳げ鯉のぼり相模川、相模の大風まつり、上溝夏祭り、さがみ湖湖上祭花火大会、橋本七夕まつり、相模原納涼花火大会、甲州街道小原宿本陣祭、津久井湖上祭、市役所さくら通りの桜、日本一の来場者数を誇る宮ヶ瀬ダム、藤野の芸術、など多様な資源を活かし、さらに民間の知恵を借りた観光プランの策定を行います。

○食べていける農業を応援します。

都市農業の振興や、6次産業化、地産地消の推進などで、農家の皆さんを応援します。

つくる⑤ 災害に強い、安心して幸せに暮らせる相模原。

《災害対策・環境》



安心・安全な生活は、幸せに生きるための土台。 災害対策は必要不可欠。

南海トラフ地震や首都直下型地震が30年以内に発生する確率は70%を超え、急傾斜地や土砂災害警戒区域が多くある相模原市にとって、災害に強いまちづくりは待ったなしの状態。また、集中豪雨や大雪など、想定外の災害が起こりうる時代です。地域の皆様と共に、平時から対策を講じる必要があります。

○地区防災訓練の充実、分散型備蓄で地域防災力の向上を。

地区によって、想定される災害は異なります。ゆえに、一律の防災訓練ではなく、地区ごとの防災訓練を、地域・学校・企業や消防団等の皆さんと一緒に実施する支援を行います。備蓄計画を見直し、分散型備蓄を進めて、地域防災力を向上します。

○通学路や緊急輸送路の安全対策を充実させます。

災害時に避難所までの道ともなる通学路や、支援物資を輸送するのに欠かせない緊急輸送路。これらの整備は災害対策の基本となります。通学路沿いのブロック塀対策を促進するなど、災害に備えます。

○災害時に避難所となりうる施設の設備を整備します。

たとえば、学校施設は災害時には避難所となります。その視点からも、学校トイレの洋式化、体育館へのエアコン設置など、順次検討していきます。また、障がいがある方の避難、ペットと一緒にの避難が行いやすいようにしてまいります。

○環境保全の取組みを進めます。

昨今の災害は、環境問題との関係も指摘されています。リサイクル推進、プラスチックごみの削減など生活に密着した取組みを進めるほか、省エネ・再生エネルギーを推進し、市の宝である豊かな自然や水源の保全を行います。

つくる⑥ 暮らしやすい、市民が誇れる幸せな相模原。 《まちづくり、交通網》



大規模開発は一度立ち止まって見直し。

いまある資源を活かし、市民にとっての幸せなまちづくりを。

今の相模原市の財政規模で大規模開発を多数行うのは持続可能な社会をつくることに逆行します。大規模開発は一度立ち止まり、本当に必要な開発や、今ある資源の活用を市民の皆さんと共に考えます。

○相模総合補給廠の一部返還地15haの利用は、市民の皆様と共に決めます。

相模総合補給廠一部返還地は、相模原市民の大切な財産です。今後の利活用については、市民が憩い・賑わう空間として、スポーツ、市民文化などを中心に、市民参加型コンペなどの開かれた手法を検討し、市民と熟慮したうえで利用方針を決めていきます。また、大前提となる小田急多摩線延伸を進めてまいります。

○駅周辺市有地や未利用地を有効活用していきます。

自転車駐車場等、駅直近にある市有地等については、民間への貸付等も視野に、土地の用途、建ぺい率・容積率をフル活用した再整備を行います。

○交通利便性の向上をはかります。

バス路線の拡充、JR相模線複線化、上述の小田急多摩線延伸など実現に向けて取り組みます。

○芸術がとけこんだまちにしていまいます。

アートを活かした地域振興の成功例は多数。藤野地区はその先進事例でもあります。子どもたちへ地域文化教育を行うなど市民がアートに触れる機会を増やし、古民家や空き家などとの連携で新しい価値を吹き込みます。

○地元スポーツチームを盛り上げ、市民の誇りにしていまいます。

市内で活躍するスポーツチームは、市民に元気とプライドをもたらします。チームの活躍を市民をあげて応援する仕組みを作ります。

○公民館の在り方について、見直しを検討します。

市民にとってあるべき公民館の姿について、見直しを検討してまいります。

つくる⑦ 多様な生き方が受け入れられ、誰一人取り残されずに幸せな相模原。 《多様性、障がい》



都市があって、自然がある。 相模原市には多様性がある。 ありのままの自分で良いという幸せ。

相模原市のもつ多様性は、最大の資源です。東京・横浜のベッドタウンとなっている都市部がある一方で、政令指定都市で唯一の水源地を保有しています。在日米軍基地があり、異文化と共生してきた歴史もあります。多様性を受け容れる土壌が、相模原市と市民にはあります。

○障がい者雇用日本一を目指します。

市が先頭に立って障がい者雇用を実現し、事業所と障がい者のマッチングを行っていきます。また、障がいがある方のご家族が相談しやすいよう体制を構築します。

○ありのままの自分で生きる社会の確立を目指します。

国籍、性、年齢などに関わらず誰もがありのままの自分を生きていくことができる社会を確立するため、「人権都市宣言」、「差別禁止条例」等を整備します。

○インクルーシブ教育を拡充します。

ユネスコでは特別な支援を要する児童だけでなく、人種、民族、言語、貧困層などの多様性への理解を求めています。相模原で育つ子どもには、世界が多様であることを肌で感じてもらえるようにインクルーシブ教育システムを実現します。子どもの貧困対策や、外国人児童への支援などにも着手します。

政策インデックス

◆つくる① 市民とつくる、市民が決める、幸せ色あふれる相模原。

《行政改革、市民協働》

- 1)市民に開かれた、新しい対話の場をつくります。
- 2)市長室の扉をなくし、誰にでも開かれた市長室にします。
- 3)出前市長室を実施し、各地区でランチを食べながら、お仕事の後に皆さんとお話ができるところまで出かけていきます。
- 4)日本一のSDGs都市を目指し、「都市と自然のベストミックス」を相模原ブランドとして、日本、世界へ発信していきます。
- 5)市民の皆さんが困っていること、縦割り組織では対応しにくい課題に対応するためのワンストップ窓口を創設します。
- 6)SNSを活かした行政サービスを実施します。
- 7)地元にある大学と連携し、地域を盛り上げていきます。
- 8)具体的政策案の計画に際しては、広く市民の意見を取り入れる仕組みを作ります。
- 9)域内税務協力団体連絡協議会を設置し、市税の使途をオープンにしていきます。
- 10)現在各地区に設けられている「まちづくり会議」の在り方を見直すとともに、地域活動や市民活動の促進に力を発揮する人財(市民ファシリテーター)を育成します。
- 11)現在の庁議システムを大幅に見直し、行政施策の検討課程や意思決定過程などを市民に対し可視化するとともに、意思決定過程への市民のコミットメントを深めていきます。
- 12)市民の知恵を市政に活かし、新しい「何か」が生まれる都市にします。
- 13)公共事業発注分門の技術力向上を図り、公平公正で効率的な事業発注を図ります。

14)市内経済団体や各業界団体などからも、専門分野の意見を聞く場を設けます。

◆つくる② 子どもたちが元気、子育て世代が幸せな相模原。

《教育、子育て》

- 15)中学校のデリバリー給食を見直し、本来の親子方式を検討します。
- 16)学校給食における地産地消を推進します。
- 17)科学技術に強い人財を育てます。科学技術に強い市立高校の設立を、県立高校再編の動きと合わせて検討します。
- 18)英語教育におけるラウンドシステム(教科書を何度も繰り返し使いながら、英語4技能の総合的定着を目指す学習方法)を検討します。
- 19)インクルーシブ教育を拡充し、世界が人種・文化、性など多様であることを肌感覚で理解する人財を育てます。
- 20)藤野をはじめとする市内在住の芸術家ネットワークをデータベース化し、小学校に芸術(絵画、音楽、演劇など)を教えにいく環境を整備することで、子どもたちが本物の芸術に触れる機会を増やし、地域文化教育に注力します。
- 21)きめ細やかな指導などを行うために、教員が子どもたちと向き合う時間の確保、少人数学級を推進します。
- 22)基礎学力定着のため、習熟度に合わせた授業等の導入を検討します。
- 23)産前産後ケアを充実させ、孤独な子育てにならないようサポートします。
- 24)保育所待機児童をゼロにするため、環境整備に取り組めます。
- 25)放課後児童クラブおよび放課後子ども教室を拡充します。

26)いじめや不登校対策として、スクールソーシャルワーカーや相談窓口を拡充します。

27)JAXAや国民生活センターなどと連携した生涯学習を行います。

28)部活動外部指導員を公募によって選定します。

29)市立小学校においてエアコンを早期に全校設置します。

30)学校の老朽化対策や耐震化対策などを促進します。

31)学校の特別教室等へのエアコン設置を検討します。

32)病児保育を拡充します。

33)駅前に子育て包括ステーションを設置し、幼稚園や保育園など包括して相談できる体制を構築します。

34)保育士に選んでもらえる相模原市にするため、独自の手当てを見直します。

35)子どもが一緒でも使いやすいトイレがすぐにわかるよう、マップやアプリなどの作成を行います。

36)あれもこれもしてはダメな公園ではなく、のびのびと子どもたちが遊べる場を確保します。

◆つくる③ シニアが元気で幸せな相模原。 《医療、活躍の場》

37)シニア世代の自由な移動を支援するため敬老パスを導入します。

38)交通空白地帯では、コミュニティバスやデマンドタクシーの充実を図ります。

39)予防医療に軸足を置き、かかりつけ医の登録を推進します。

40)検診普及率を向上させます。

41)高度先進医療と1次・2次医療の連携を強化し、データを共有化します。

42)シニア人財バンクを創設し、地域活動とマッチングしていきます。

43)多世代が交流できる拠点を、空き家や商店街の空き店舗などを使って整備します。

44)上記のような活躍の場づくりと合わせ、認知症への理解を深めて認知症でも暮らしやすいまちにします。

45)ICTを活用した地域包括ケアを確立してまいります。

46)介護人材を確保するとともに、有識者の意見を取り入れた介護予防のまちづくりを検討します。

47)地域の企業と連携し、ヘルスケア産業の創出に取組みます。

◆つくる④ 産業が元気、働く人が幸せな相模原。

《産業振興、観光》

48)トップセールスによる企業誘致を行います。

49)宇宙産業のスタートアップなど、新しいビジネスを支援します。

50)宇宙産業とロボット産業の集積を誘導します。

51)テレワークの拠点整備支援やシェアオフィスの整備を行い、新しい働き方を支援します。

52)民間の力を活かした、観光振興を行います。

53)市の発注する事業については、原則として市内の業者を優先します。

54)公共交通空白地を前提とした、自動運転システムの検討を行います。

55)海外販路拡大の支援など、地元の中小企業支援や、やる気のある若者・女性の起業支援を行います。

56)個人消費減少7,500億円、経済的損失2,860億円と試算される花粉症。経済支援の側面からも花粉症対策を実施します。

57)市内の優れた中小企業を知り、関心を持ってもらうための常設展示やポータルサイト等の整備を検討します。

58)商店街や商業施設の強化振興策を検討します。

59) 急務である有害鳥獣対策については、地元の皆様と連携しながら、支援策を強化してまいります。

60)リニア中央新幹線新駅は降りたいと思う駅にします。また、車両基地観光資源化や回送線の旅客化を呼び掛けてまいります。

61)都市農業を振興します。

62)営農意欲にも影響を与えるヤマビル対策を行います。

63)食べていける農家となるよう支援します。

◆つくる⑤ 災害に強い、安心して幸せに暮らせる相模原。

《災害対策・環境》

64)地域・学校・企業・消防団などが一緒に行う地区防災訓練の支援を行います。

65)備蓄計画を見直し、分散型備蓄を進めて、地域防災力を向上します。

66)通学路や緊急輸送路の安全対策を行います。

67)学校トイレの洋式化や体育館へのエアコン設置など避難所となりうる施設の設備整備を検討します。

68)障がいがある方や移動が困難な方が避難しやすいよう配慮を行います。

69)ペットと一緒に避難できるような避難所を整備します。

70)局地的集中豪雨の少しでも早い予測を民間の力を借りて市民の皆様にお伝えできるよう検討します。

71)広域的な避難拠点の整備を、周辺市とも協議して行います。

72)災害時の復旧復興のためにも、地籍整備を推進します。

73)災害時の医療体制を、市内の病院と連携をしながら整えます。

74)災害協定等を結んでいる団体などの一層の連携とプロの視点を取り入れる情報共有化を図ります。

75)昨今の災害は、環境問題との関係も指摘されています。リサイクル推進、プラスチックごみの削減など生活に密着した取り組みを進めるほか、省エネ・再生エネルギーを推進し、市の宝である豊かな自然や水源の保全を行います。

76)リサイクルなど生活に根差した施策は市域で完結する「地域環境都市圏」を検討します。

◆つくる⑥ 暮らしやすい、市民が誇れる相模原。

《まちづくり、交通網》

77)大規模開発は一度立ち止まって見直します。

78)相模総合補給廠の一部返還地15haの利用方針は市民と共に決めます。

79)再開発や街の整備には市民理解と参画を進め、少子高齢社会に見合った都市の構造を抜本的に見直します。

80)橋本・相模原の二極複眼構造のまちづくりについては、目指す「まち」のビジョンをあらためて明確にしたうえで、個性を活かし、多様性のあるまちをつくりまします。

81)駅周辺市有地や未利用地を有効活用していきます。

82) 増え続ける振り込め詐欺の対策をはじめ、犯罪ゼロを目指し、地域や警察と協力してまいります。

83)タバコのポイ捨てゼロを目指します。

84)国道16号の整備の推進を国に働きかけ、渋滞対策を進めます。

85)小田急多摩線延伸の実現を積極的に進めます。

86)バス路線の拡充を検討します。

87)JR相模線の複線化を働きかけてまいります。

88)圏央道へのアクセスを見直します。

89)国や県はもちろん、座間市、大和市、厚木市、愛川町、清川村、山北町、東京都、町田市、八王子市、檜原村、山梨県、上野原市、道志村などの隣接市町村や、横浜市、川崎市、立川市、海老名市などの近隣市町村と連携します。共通の課題を共有し、共に課題解決を目指します。

90)在日米軍基地は、働く人たちの雇用に配慮しながら、全面返還を求めています。

91)都市公園法改正で新設されたPark-PFIを活用して、市内の公園に賑わいを生み出し、シビックプライドの醸成に繋がります。同制度の活用により公園の維持・管理費を捻出し、財政効果も見込みます。

92)公民館の在り方について、見直しを検討します。

93)リニアの開発に際しては、JR東海の顔が見える対応を求めています。

94)在日米軍の騒音解消を、日米地位協定の抜本的な改正と合わせて求めています。

95)市内で活躍するスポーツチームは、市民に元気とプライドをもたらします。チームの活躍を市民をあげて応援する仕組みを作ります。

96)文化を通じた市内交流事業を促進します。

**◆つくる⑦ 多様な生き方が受け入れられ、誰一人取り残されずに幸せな相模原。
《多様性、障がい》**

97)国籍、性、年齢などに関わらず誰もがありのままの自分を生きることのできる社会を確立するため、「人権都市宣言」、「差別禁止条例」等の整備を検討します。

98)ユネスコでは特別な支援を要する児童だけでなく、人種、民族、言語、貧困層などの多様性への理解を求めています。相模原で育つ子どもには、世界が多様であることを肌で感じてもらえるようにインクルーシブ教育システムを実現します。子どもの貧困対策や、外国人児童への支援などにも着手します。

99)様々な事情により義務教育段階相当の教育を受けられなかった人、また受けた人などに「学び直し」の機会を確保するため、夜間中学を設置します。

100)全ての人の人権を尊重し、ヘイトスピーチを規制する条例を整備します。

101)外国人市民も安心して暮らせるよう、児童生徒の教育環境整備、他文化交流の機会の充実、防災情報や行政情報の多言語化に取り組めます。

102)障がい者雇用日本一を目指し、市が先頭にたって障がい者雇用を実現します。また、事業所と障がい者のマッチングを行っていきます。

103)ダイバーシティ、共生社会の実現を目指してまいります。

未来の幸せは市民が決める



大規模開発は一度立ち止まって見直し。
市民による市民のための利活用を市民の力で。

いまの相模原市の財政規模で、大規模開発を多数行うのは持続可能な社会をつくることに逆行します。本当に必要な開発や、いまある資源の活用を市民の皆さんと共に考えます。

たとえば、**相模総合補給廠一部返還地**は市民の大切な財産です。今後の利活用については、市民が憩い、賑わう空間として、スポーツ・市民文化などを中心に、市民参加型コンペなどの開かれた手法を検討し、市民と熟慮したうえで利用方針を決めていきます。また、大前提となる小田急多摩線延伸も進めてまいります。

「こんにちは、市長です」「こんばんは、市長です」
市長室の扉をなくし、新しい対話の場をつくります

課題山積の市政を進める上で、**市民の皆さんとの対話と相互理解**は何よりも大切です。市長室の扉をなくし誰にも開かれた市長室とします。そして、市長が月一回以上各区を回り、ランチを食べながら、お仕事の後など、皆さんとお話できる時間、場所まで出かけていく「こんにちは、市長です」「こんばんは、市長です」(仮称)の新しい対話の場をつくります。

【もとむら賢太郎氏のプロフィール】

- 昭和45年(1970年)4月生まれ。(48歳)
- 相模台幼稚園・桜台小・相模台中・県立麻溝台高・青山学院大卒。
- 本村和喜参議院議員秘書、東鉄工業(株)を経て、**藤井裕久衆議院議員秘書**。
- 平成15年神奈川県議選に選挙区最年少で初当選、平成19年にトップの得票で再選。
- 平成21年衆議院議員初当選。平成24年総選挙で惜敗。平成26年12月衆議院議員再選。
- 民進党国対副委員長、党神奈川県連代表、衆議院文部科学委員会理事、国土交通委員会理事、議院運営委員会理事などを歴任。
- 平成29年10月3期目当選。
- 平成30年5月より無所属議員となる。衆議院国土交通委員、災害対策特別委員を務める。

※平成31年2月18日現在

発行：相模原から日本を変える!会

〒252-0332 相模原市南区西大沼2-52-13 TEL 042-851-6152 FAX 042-851-6162